

短期予報解説資料 2025年12月4日03時40分発表

気象庁

1. 実況上の着目点

- ① オホーツク海や日本の東の低気圧と大陸の高気圧との間で、日本付近は冬型の気圧配置が強まり、日本海のシアーラインが北陸地方を指向。
- ② 500hPa 5280m付近で-36°C以下の寒気を伴うトラフが東日本を通過中。850hPaで-6°C以下の下層寒気が西～東日本太平洋側まで南下。
- ③ 強い冬型の気圧配置や②の寒気の影響で、全国的に強い風や非常に強い風が吹いて、海上はしけとなり、大しけとなっている所がある。また、北～西日本日本海側の山沿いでは、3時間で5～15cmの降雪を観測、沿岸部で雷を検知。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 4日は、1項②のトラフは千島の東に進み、1項①の日本の東の低気圧は急速に発達しながらカムチャツカ半島付近に進む。日本海のシアーラインは若狭湾付近に南下して不明瞭になり、日本付近の強い冬型の気圧配置は次第に緩む。また、夜までに日本海で発生する低気圧が東日本日本海側に進む。
- ② 5日は、2項①のカムチャツカ半島付近の低気圧はオホーツク海に進み、500hPa 5340m付近のトラフに対応して、東日本日本海側の低気圧は日本の東に進み、別の低気圧が日本海から北陸地方に進む。また、大陸の高気圧がチエジュ島付近に移動して、日本付近の冬型の気圧配置は次第に緩む。
- ③ 6日は、2項②の高気圧は日本の東に中心を移し、別の高気圧が華中から東シナ海に移動。500hPa 5280m付近のトラフに対応する低気圧が沿海州付近に進み、500hPa 5460m付近のトラフに対応する気圧の谷が、日本海から北～東日本日本海側に進む。
- ④ 850hPaで-6°C以下の下層寒気は、4日は西～東日本日本海側に北上、5日は東日本日本海側に停滞、6日は宗谷海峡付近へ北上。また、2項①～②のトラフの影響で5日にかけて、上空500hPaで-36°C以下の寒気が北日本に、-30°C以下の寒気が東日本日本海側に移流。これらの寒気や2項①のシアーライン、2項②の低気圧の影響で、北～東日本では5日にかけて、西日本では4日は、大雪やふぶきによる交通障害、着雪やなだれに注意。北陸地方の平地では雨や雪が降り大雨となる所がある。土砂災害に注意・警戒。また、北～東日本では6日にかけて、西日本では5日にかけて、大気の状態が不安定になる所がある。落雷や突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ⑤ 2項①～②の冬型の気圧配置の影響で全国的に5日にかけて、強い風が吹き、波が高くしけとなる所がある。強風や風雪、高波に注意。また、4日は北～西日本日本海側では非常に強い風が吹き大しけとなる所がある。暴風雪や高波に警戒。2項③の低気圧や気圧の谷と高気圧の間や、高気圧南縁でも、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなる所がある。北～東日本と南西諸島では6日も強風や高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

- 4. 防災関連事項【量的予報等】
 - ① 雨量(06時からの24時間)：多い所100mm以上はない。
 - ② 降雪量(06時からの24時間)：東北70、北海道・北陸40、関東甲信・東海30、近畿20、中国15cm。波浪(明日まで)：東北・伊豆諸島・北陸・近畿6、中国5、その他広い範囲で3～4m。
 - ④ 高潮(明日まで)：大潮の時期。北～西日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無

発表の予定はない。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。